そらんぽへ行こう　Vol.84

開館30周年記念 特別展「立原位貫（いぬき）」開催中！

そらんぽ四日市ホームページ

博物館では、開館30周年記念特別展「立原位貫～想像力から創造力へ～」を、４階特別展示室で11月５日(日)まで開催しています。

本市ゆかりの木版画家・立原位貫（1951－2015）は、独学で江戸期浮世絵を復刻し、さらに粋で個性的なオリジナル作品を創り出しました。没後は大英博物館に作品が収蔵されるなど、世界的にも評価されつつあります。

本展では、富田・十四川の桜を題材にした「バードロアー」や「四日市鯨船祭」など本市にゆかりのある作品も展示しています。郷土ゆかりの世界に誇れる木版画家の足跡をたどり、木版画の魅力をご紹介します。

江戸期浮世絵の制作当時の色を鮮やかに蘇らせた復刻作品は、材料や道具にもこだわって制作され、立原氏の復刻にかける情熱と技術の高さを感じることができます。

また、美しい色彩と繊細で伸びやかな彫りで表現されたオリジナル作品には、粋でモダンな世界が広がります。

浮世絵に興味のある人はもちろん、初めて観覧する人も、美しい木版画の世界を心ゆくまでお楽しみください。

立原位貫「バードロアー」(1997)
©Arte Vinculo INUKI

問 博物館・プラネタリウム（TEL 355-2700　FAX 355-2704）

文化財さんぽ　Vol.19

水沢茶の発祥の地はどこ？

水沢町の雲母峰（きららみね）の南側山裾、楓谷（もみじだに）から宮妻峡へ通じる林道を登ると、市内を一望できる宮妻峡（みやづま）第二中間展望台があります。この展望台から南側の斜面を下ったところに、「冠山茶の木原（かんざんちゃのきばら）」があります。ここには茶の木の原木が他の草や低木と混生しながら存在しています。

冠山茶の木原は、伝承によると、平安時代に飯盛山浄林寺（いいもりさんじょうりんじ）（現在の一乗寺）の住職が、空海（弘法大師）に製茶の教えを受け、唐（中国）の茶の木を植えて栽培したのが始まりとされています。ここから始まったお茶が、今の水沢茶とされており、広く市民に親しまれるようになりました。

この茶の木原が水沢茶の発祥地として注目されたことから、昭和56年に市指定の史跡となりました。水沢町の足見田神社では毎年５月初旬の八十八夜に合わせて、茶業の振興を祝う新茶の「献茶祭」が行われ、冠山茶の木原で摘み取られた新茶も奉納されています。

茶の原木が広がる「冠山茶の木原」

問 文化課（TEL 354-8238　FAX 354-4873）